

ギャラリー 仲摩通信

二〇二〇年十一月、十二月合併号

彫刻の森美術館
に多田美波先生の
第一回ヘンリーム

ーア大賞受賞作品
「極」を観に行き
ました。円錐形に



多田美波「極」1979年

大きくひだをとった彫刻は、周囲の景色を取り込み、様々な表情を見せてくれます。彫刻の森美術館は、広々とした自然の中にヘンリームーアを始め、世界の著名な作家の作品が点在しています。美術ファンはもちろん、「ご家族連れも楽しめるお薦めの美術館です。ぜひ、お出掛けになってみてください。

今号では、黄金崎クリスタルパークガラスミュージアム学芸員、佐久間詔代さん、北海道立近代美術館学芸員、星野靖隆さんに執筆して頂きました。(仲摩)

■西伊豆ガラスアートを訪ねて

黄金崎クリスタルパークに行きました。オープンの一九九七年、「ボフミール・エリアッシュ&チェコのガラス彫刻展」を企画協力させて頂きました。

ガラスを絵画、彫刻の表現素材に用いたエリアーシユ氏の造形作品は力強く、エネルギーに満ち溢れていました。

ワークショップの手伝いをされた当時十七歳だったご子息は、氏の志を受け継ぎ、現在、画家、彫刻家として活躍されています。(エリアーシユ氏は二〇〇五年に逝去されました)

ひとときわ目立つプリン型のユニークな建物は、毛綱毅曠(もづなぎこう)氏の設計です。(能登島ガラス美術館も同氏が設計されました)



クリスタルパーク外観

「新収蔵作品による現代ガラス展」見学後、カフェでランチを摂りました。

塩鯉(新巻鮭の鯉版) パニーニ初体験。塩気がきいて、食欲をそそる味でした。ギャラリーで、気になる作品に出会いました。ひえだ優

子さんの「イトシ

ノワガヤ」



子さんの「イトシノワガヤ」、ロボットで家族愛を表現した作品です。今回の「西伊豆ガラス作家展」でどんな作品に会えるか楽しみです。(仲摩)

●黄金崎クリスタルパーク

黄金崎クリスタルパーク・ガラスミュージアムでは、以前、仲摩通信でもご紹介いただいたとおり、十二月十五日まで「新収蔵作品による現代ガラス」展を開催しています。

令和元年に西伊豆町へガラス造形作品がまとまって寄贈されたことを受けての展覧会です。



新収蔵作品による現代ガラス展

その後は、十二月十九日より、約三年ぶりに西伊豆町のガラス作家のグループ展を行う予定です。現在、西伊豆町内には三件の個人ガラス工房があつて、三組六名の作家がいます。更に、当施設の体験工房のスタッフ二名が加わり、出品作家は計八名です。彼らはいずれも、他所から移住し、既に約二十年にわたり定住しています。

そもそも、西伊豆は板ガラス原料となる珪石が採掘されていた土地で、そういう意味ではガラスの生まれ故郷とも言えます。そのような背景もあり、西伊豆町在住の個人ガラス工房作家たちは、平成十四年に作家の会を立ち上げ(昨年に「西伊豆硝子舎」と改称し、組織も若

干変更した)、個々の作家活動以外にも、ガラスアートをとおして、西伊豆町をPRしたり、町おこしを担ったり、また地元の人々と交流したりしてきました。

主な活動

としては「かも風鈴」のデザインコンテストと風鈴の制作、オリジナルのガラスを用いて「キャンドルを灯すイベント」「ガラスナイトガーデン」(以前は「キャンドルナイト」と称した)、町



かも風鈴

外でのグループ展などがあります。さて、西伊豆ガラス作家展の当館開催は、このたび通算六回目となります。近年は、設定したテーマに沿った作品も一部出品されています。今回は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり(そして現在も終息していませんが)、それを受けて各々が感じたこと、考えたこと、共有したいことなどをガラスで表現した作品という点でお願いしています。それ以外にも、新作を中心に多彩なガラス作品が展示されます。



ガラスナイトガーデン

最近また新型コロナウイルス感染症が急速に

拡大しており、今後の状況が懸念される
ところではありますが、皆様にガラスミ
ュージアムでのひとときをお楽しみい
ただければ幸いです。その後はちよつと
足をのばして、海、夕陽、ジオサイト(奇
岩など)、温泉、しおかつお、などを堪能
しつつ、西伊豆でのんびり過ごされて
はいかがでしょう？



(黄金崎クリスタルパーク
ガラスミュージアム学芸員 佐久間詔代)

●北海道立近代美術館

北海道立近代美術館では、近美コレク
ション「日本の美」(来年 2/14日)まで)
を開催します。本展覧会では、浮世絵、
日本画、ガラスの三つの分野から、日本
の伝統美という視点により当館のコレ
クションをご紹介します。

ガラスの展示は、「ガラスに見る和の
世界」と題し、四つのコーナーで構成さ
れています。最初のコーナー「日本のガ
ラスの黎明」では、江戸と明治・大正時
代の「美術工芸」以前の素朴な味わいの
あるガラスと、ガラス細工が施された灯
籠や望遠鏡、虫眼鏡といったガラス製品
が描かれた江戸時代後期の浮世絵を展
示します。浮世絵は、2点ずつ3期に
分けて計6点展示します(前期：11/21
～12/20' 中期：12/22～1/17' 後期：1/19

～2/14)。

第二のコーナー「生活に寄り添う」で
紹介するのは、戦後のガラス界をリード
した作家たちによる、日常使いのうつわ
と茶道具です。素焼きの焼き物を思わせ
る表面の凹凸が、水滴のような輝きを生
む淡島雅吉の「しづくガラス」。小柴外
一が岩城硝子在職中に手掛けた型押し
ガラスと退職後に

自宅窯で制作した
パート・ド・ヴェー
ルによる茶碗。そし
て岩田藤七の東洋
陶磁を範に取りながら、色ガラスにより
多彩な文様をあらわした茶道具。いづれ
も、日本の伝統的なうつわの形状やモチ
ーフ、文様を取り入れています。



岩田藤七「茶碗・銀河」

一方で、「飾りのガラス」コーナーで

藤田喬平「飾箱・源氏物語」



は、藤田喬平の
「飾箱」、小林英
夫による現代の
江戸切子など、日
本の装飾美の伝
統を引く絢爛な

ガラスをご覧ください。とりわけ、
藤田の生涯を代表する「飾箱」は、金箔
やプラチナ箔を大胆に使い琳派の美意
識をガラスに現出させ、世界的に高い評
価を受けたシリーズです。

最後に「日本の現代ガラス」では、伊
藤宇、扇田克也、米原真司ら、ガラス・
アートという新たな世界を切り拓く現
代作家の作品をご紹介します。とりわけ、
扇田克也の《ワタシノアソジラ》《アメ
ノヒモアル》は、第四回「世界現代ガラ
ス展」(一九九一年)で最高賞の北海道

立近代美術館賞を受賞した作品です。金
沢に移り住んだ作者は、その地に多い総
二階という家屋の形が気になるようにな
ります。意識せず何回も目にするうち
に内部に蓄積され、自然と作品にあらわ
れたのが、この家の形態だといえます。
また、作者は家の形を「和気藹々とした
暖かい雰囲気を出せる」「この形だけで
暖かい感じを出しやすい」と語ります。

暖かい感じを出しやすい」と語ります。
実際に光を内部に留めてほかに光る
その姿は、障子越しに見る暖かく穏やか
な光を想起させます。また、屋根には、
渋く輝く銀箔が葺かれており、まさに日
本的な情感をたたえた作品といえます。
今回、こうした日本の伝統美や日本人
の感性から生まれたガラス作品約五十
点を展示します。ひととき心を潤しにお
越しくくださいますと幸いです。

(北海道立近代美術館学芸員 星野靖隆)

道近美

で検索してください

●お知らせ

新島ガラスアートセン
ターは、一九八八年に
スタートし、ガラス造
形作家の野田收、由美
子ご夫妻が中心となり、
毎年恒例で「新島国際
ガラスアートフェスティバル」を開催し
てきました。残念なことに、今年予定し
ていた第三十三回フェスティバルは、コ
ロナ感染予防対策のため、来年に延期さ
れることになりました。今年、ウェブ
でこれまでの活動をお楽しみください。



新島ガラスアートセンター

新横浜市庁舎近く二つの建築展

www.nijimaglass.com

●Bankart KAIKO(旧帝蚕倉庫)

村野藤吾展 開催中～12/27(日)

●Bankart Temporary(旧第一銀行)

榎文彦展 開催中～12/27(日)

月曜日休館、12/27は17時まで

※共通チケットは記名式で本人に限り
何度でも入場可能です。一般一六〇〇円

横浜市民は一〇〇〇円

お問合せ info@bankart.com

《編集・発行》株式会社ギャラリー仲摩

横浜市緑区三保町二〇六〇番地

TEL:090-1053-6642

nakama@nakama.co.jp